



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2022年11月8日 配当支払開始予定日 2022年12月12日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	42,920	△2.9	△275	—	219	△89.1	122	△91.1
2022年3月期第2四半期	44,219	—	1,794	—	2,013	—	1,380	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △100百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 1,222百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	5.12	—
2022年3月期第2四半期	57.44	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	80,529	52,385	65.1	2,180.51
2022年3月期	83,262	52,786	63.4	2,197.20

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 52,385百万円 2022年3月期 52,786百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2023年3月期	—	13.00			
2023年3月期(予想)			—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	96,000	1.6	500	△87.9	900	△81.0	500	△85.2	20.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日（2022年10月28日）公表いたしました「2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 一社（社名）一、除外 1社（社名）北日本羽黒食品株式会社

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご参照ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	27,000,000株	2022年3月期	27,000,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	3,675,613株	2022年3月期	3,675,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	24,024,387株	2022年3月期2Q	24,024,387株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	10
(会計方針の変更) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症第7波の流行があったものの影響が徐々に和らぎ始め、行動制限の緩和等により個人消費に持ち直しの動きがみられました。しかしながら、東欧情勢の長期化や欧米の政策金利上昇等を背景とした為替の急速な円安進行により、物価上昇圧力が増す先行き不透明な状況が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、原材料、エネルギー価格の上昇により厳しい経営環境が継続したことに加え、生活必需品の相次ぐ値上げや実質賃金の伸び悩みが続き、消費者の生活防衛意識が一層高まる状況で推移しました。

このような状況下で当社グループは、食品製造企業として一貫して品質保証第一主義に徹し、感染防止対策の徹底に努めながら安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、各種価格上昇に伴うお客様の選択消費傾向が進む中、価格と品質が調和したバラエティ豊かな商品の充実と、健康や環境に配慮し付加価値を高めた商品の展開を進め、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組みました。あわせて、企画提案型の営業活動と店頭フォローを積極的に行い、お客様の笑顔と満足につながる活動を推進してまいりました。また、「プチクマ」をデザインした貨物鉄道用コンテナ「プチクマコンテナ」の運用を開始し、モーダルシフトによる環境負荷低減のさらなる推進を図りました。さらには、子育て支援が企業の社会的責任の一つであるとの認識のもと取り組みを進めている中、社員への次世代育成支援が評価され、厚生労働省新潟労働局より「プラチナくるみん」の認定をいただきました。

これら活動に取り組んだ結果、チョコレート品目やキャンデー品目が順調に推移し、「アルフォートFS」等のファミリーサイズ商品群などにもご好評をいただいたものの、価格改定を実施した商品が想定より伸び悩んだことから売上高は前年同期を若干下回りました。利益面では、原材料、エネルギー価格の上昇に加え、円安進行によるコスト上昇が続いています。当社では生産性の向上とコストの削減、経費の効率的な使用に継続して取り組んだことに加え、一部商品において価格改定や規格変更を実施し適正利益の確保に努めましたが、市場定着に時間を要していることと、さらなる円安の加速により製造コストを吸収するに至らず営業損失となりました。一方、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、為替差益や投資有価証券売却益を計上しましたが、いずれも前年同期を大きく下回りました。

### 営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、40,947百万円（対前年同期比97.5%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、世界の国々で長く親しまれている伝統的な焼菓子を、手軽にお楽しみいただけることをコンセプトとした商品「旅するお菓子屋さん」シリーズ3品を新発売しました。健康志向に対応した取り組みとして、糖質量を抑えた「カーボバランス」シリーズにバイクドショコラケーキを発売しご好評をいただきました。「エクセレントスイーツ」シリーズは、リニューアルによる品質の向上を図ったことに加え、商品個装フィルムの薄物化やバイオマスフィルムの採用など環境に配慮した取り組みが評価され、2022日本パッケージングコンテストにおいて菓子包装部門賞を受賞しました。発売40年を迎えた当社オリジナルの三角形ケーキ「シルベヌ」では、「シルベヌホワイトミルク」の発売とキャンペーンを実施し、ブランド認知の向上に努めました。品目全体では、ファミリーサイズ商品群や「ロアンヌ」シリーズ等が順調に推移した一方、スタンダードビスケット商品群などの既存品が伸び悩みました。

キャンデー品目は、天候の影響により熱中症対策商品の「ミネラル塩飴」がご好評をいただきました。また、食感が楽しめる「しゃりもにグミ」シリーズにグレープ味やルーツ限定商品を発売し、商品認知の向上を図りました。あわせて「フェットチーネグミ」シリーズでは、新商品の発売に加え継続したプロモーション展開を実施しブランド認知の向上を図りました。

チョコレート品目は、「ひとくちルマンド」シリーズで、新たにウェブCMを展開し商品ブランドの強化を図りました。あわせて、ほろ苦くカカオ風味豊かなクレープ生地とバニラ風味の効いたホワイトチョコレートを組み合わせた「ひとくちルマンドホワイト」を発売し、品ぞろえの強化を図りました。また、「アルフォートミニチョコレート」シリーズでは、バナナチョコやマロンチョコを使用した期間限定商品の展開に加え、キャンペーンやCMの投入によりブランド強化を図りました。さらには、値ごろ感のある大袋商品「108gトリュフミルクガナッシュ」などを発売し、節約志向に対応した商品展開にも努めました。

菓子全体では、市場への定着に時間を要した価格改定商品が伸び悩み、前年同期を下回りました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、1,972百万円（対前年同期比88.0%）となりました。

飲料品目は、蓄光インクを使用したラベルが暗所でやわらかく発光するミネラルウォーター「天然水 s o n a L n o 5 0 0 m l」を発売し、防災向けのローリングストックの提案を行いました。品目全体ではミネラルウォーター商品群が順調に推移したものの、ソフトドリンク商品群が伸び悩み前年同期を下回りました。

食品品目は、アレンジ自由な食品シート「スライス生チョコレート」のリニューアルを行いました。また、粉末ココア商品群は「ミルクココア」のリニューアルを行ったものの、既存品が伸び悩みました。一方、機能性食品群は、リニューアルした「スローバー」シリーズや「セノビックバー」シリーズに引き続きご好評をいただきました。「プロテインバー」シリーズが競争激化の影響を受けたことに加え、保存缶商品の需要が落ち着いたことなどから、品目全体では前年同期を下回りました。

冷菓品目は、「ルマンドアイス」と「ロアンヌアイス」に、ベルギーチョコレートを使用した商品を発売し品ぞろえの強化を図りました。また、凍らせても柔らかいグミをモナカアイスと組み合わせた「グミーツ」に、イタリアンレモン味を発売し商品認知の向上を図りました。品目全体では、定期的な新製品の投入により前年同期を上回りました。

その他では、通信販売事業は、巣ごもり需要に一服感がみられたものの、季節に合わせた商品展開やECチャネル限定の企画展開およびキャンペーンを実施し、リピーターの増加と販路拡大に取り組みました。

自動販売機事業は、新規開拓によるプチモールの設置台数の増加と、既設自販機の収益性向上と効率化を図りました。多様な商品を取り扱い、対面接触を避けた食品販売ツールとしての環境整備に取り組み、販売も感染症拡大前の状況近くまで回復しています。

酒類販売事業は、社会経済活動の再開により、飲食店ルート向け商品や土産用受託商品の需要が回復傾向で推移しました。また、2022年1月から8月期間内の地ビールメーカー総出荷量（東京商工リサーチ調べ）は、グループ会社のエチゴビール株式会社が11年連続トップとなりました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は42,920百万円（対前年同期比97.1%）、営業損失は275百万円（前年同期 営業利益1,794百万円）、経常利益は219百万円（対前年同期比10.9%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は122百万円（対前年同期比8.9%）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は35,595百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,276百万円減少となりました。これは主に、現金及び預金ならびに受取手形及び売掛金の減少と商品及び製品の増加があったことによるものです。固定資産は44,934百万円となり、前連結会計年度末に比べ543百万円増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得があったことによるものです。

この結果、総資産は80,529百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,733百万円減少となりました。

### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は20,980百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,401百万円減少となりました。これは主に、仕入債務（支払手形及び買掛金）と未払費用の減少および法人税等の支払ならびに短期借入金の増加があったことによるものです。固定負債は7,163百万円となり、前連結会計年度末に比べ69百万円増加となりました。

この結果、負債合計は28,144百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,332百万円減少となりました。

### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は52,385百万円となり、前連結会計年度末に比べ400百万円減少となりました。これは主に、在外子会社の円換算時に発生する為替換算調整勘定の減少があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は65.1%（前連結会計年度末63.4%）となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は12,638百万円となり、前連結会計年度末（16,793百万円）に比べ4,154百万円減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は3,283百万円（前年同期2,795百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益300百万円と棚卸資産の増加額4,008百万円および売上債権の減少3,602百万円ならびに仕入債務の減少1,843百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,462百万円（前年同期2,170百万円の支出、対前年同期比113.4%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,587百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は1,504百万円（前年同期535百万円の支出）となりました。これは主に、短期借入金の増加額2,000百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年7月29日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日付で「2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

（なお、当業績予想は、新型コロナウイルス感染症による経済活動停滞の影響及び原材料やエネルギーコストの上昇を織り込み算出しています）

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,790	12,638
受取手形及び売掛金	13,389	9,792
有価証券	2	—
商品及び製品	4,077	7,258
仕掛品	576	596
原材料及び貯蔵品	3,479	4,313
その他	560	999
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	38,871	35,595
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,898	16,524
機械装置及び運搬具（純額）	11,059	10,576
その他（純額）	10,146	10,626
有形固定資産合計	37,104	37,727
無形固定資産		
のれん	862	805
その他	391	418
無形固定資産合計	1,254	1,224
投資その他の資産		
その他	6,032	5,983
投資その他の資産合計	6,032	5,983
固定資産合計	44,390	44,934
資産合計	83,262	80,529

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,477	9,659
短期借入金	60	2,010
1年内償還予定の社債	100	—
未払法人税等	840	319
賞与引当金	1,308	1,547
その他	9,594	7,443
流動負債合計	23,382	20,980
固定負債		
社債	—	100
長期借入金	78	73
役員退職慰労引当金	264	275
退職給付に係る負債	5,650	5,681
負ののれん	12	11
その他	1,088	1,021
固定負債合計	7,094	7,163
負債合計	30,476	28,144
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	46,231	46,053
自己株式	△941	△941
株主資本合計	53,116	52,939
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	324	369
為替換算調整勘定	△630	△914
退職給付に係る調整累計額	△24	△9
その他の包括利益累計額合計	△330	△553
純資産合計	52,786	52,385
負債純資産合計	83,262	80,529



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	44,219	42,920
売上原価	32,696	33,240
売上総利益	11,522	9,679
販売費及び一般管理費	9,728	9,955
営業利益又は営業損失(△)	1,794	△275
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	38	48
為替差益	108	408
負ののれん償却額	0	0
その他	86	56
営業外収益合計	237	517
営業外費用		
支払利息	2	2
減価償却費	10	14
その他	5	5
営業外費用合計	18	22
経常利益	2,013	219
特別利益		
投資有価証券売却益	0	118
特別利益合計	0	118
特別損失		
固定資産処分損	1	8
減損損失	3	2
投資有価証券評価損	4	22
その他	—	4
特別損失合計	9	38
税金等調整前四半期純利益	2,003	300
法人税、住民税及び事業税	760	223
法人税等調整額	△137	△46
法人税等合計	623	177
四半期純利益	1,380	122
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,380	122

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,380	122
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	44
為替換算調整勘定	△174	△283
退職給付に係る調整額	14	15
その他の包括利益合計	△157	△223
四半期包括利益	1,222	△100
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,222	△100
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,003	300
減価償却費	2,099	2,152
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△41	△51
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	2	2
為替差損益 (△は益)	△76	△341
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△114
固定資産処分損益 (△は益)	1	8
減損損失	3	2
投資有価証券評価損益 (△は益)	4	22
売上債権の増減額 (△は増加)	3,145	3,602
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,785	△4,008
仕入債務の増減額 (△は減少)	△594	△1,843
未払費用の増減額 (△は減少)	△781	△1,801
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	6	10
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	67	53
その他	△437	△643
小計	3,675	△2,592
利息及び配当金の受取額	41	51
利息の支払額	△2	△2
法人税等の支払額	△918	△739
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,795	△3,283
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,105	△2,587
投資有価証券の取得による支出	△5	△56
投資有価証券の売却による収入	0	278
その他	△60	△96
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,170	△2,462
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	2,000
長期借入金の返済による支出	△105	△55
社債の発行による収入	—	99
社債の償還による支出	—	△100
リース債務の返済による支出	△129	△139
配当金の支払額	△300	△300
財務活動によるキャッシュ・フロー	△535	1,504
現金及び現金同等物に係る換算差額	51	86
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	141	△4,154
現金及び現金同等物の期首残高	14,778	16,793
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,920	12,638

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）

2022年4月1日付で、当社の特定制子会社であった北日本羽黒食品株式会社は、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。